

# 強者の戦略

【大変遅くなってしまいました…】

こんにちは、北林です。後期試験が終わり、もう春は目前となってしまいました。本当に遅くなって申し訳ありません。

新高3のみなさんはそろそろ志望校を確定した頃だと思います。目標を定めたら一直線に進んでくださいね。目指すは合格のみです。2016年の大河ドラマ「真田丸」最終回の真田信繁(幸村)風にいうと、「狙うは家康の首〜！ただひと〜つ！」です。また体調管理には気をつけてください。睡眠時間もちゃんととってくださいね。

受験を終えられた皆さん、本当にお疲れさまでした。4月からの新生活、存分に充実させてくださいね。

さて、解答作成へのワンポイントアドバイスです。改めて問題の確認です。

問題 大阪大学 2008 年

近代以前の中国はどのような「世界」観をもち、諸外国とどのような外交関係を結ぶのが原則だったか、また清朝末期にそれはどのように変化したかについて、以下の用語をすべて一回以上使用しながら説明しなさい(150 字程度)。

朝貢	冊封	アヘン戦争
日清戦争	宗主権	不平等条約

---

そこまで難しくはなかったと思いますが、落ち着いて確認していきたいと思います。

中国王朝の外交はすごく特殊ですよね。周辺諸国と形式的な上下関係を結んでいたり、近現代になるとそれも変わってきます。

でもよく考えたら今の中国も昔の名残があるのかな、なんてことも感じたりもします。

それでは簡単にアドバイスさせていただきます。

# 強者の戦略

《ワンポイントアドバイス》

問われていることははっきりしています。問題文から以下の三点がはっきりわかります。

1. 近代以前の中国はどのような「世界」観をもち、
2. 諸外国とどのような外交関係を結ぶのが原則だったか、
3. 清朝末期にそれはどのように変化したかについて

指定語句からみてもそれぞれの内容については容易に想像がつかますね。指定語句は

朝貢	冊封	アヘン戦争
日清戦争	宗主権	不平等条約

でしたね。でもまずは指定語句抜きで内容を考えてみましょう。その上で指定語句をどこで使うか、考えてみてください。

1は中華思想が思い浮かべればいいですね。でもそれをちゃんと説明しましょう。

中華思想とは、中国(の皇帝)が世界の中心で、中国文化・文明が一番優れているぜ！周りは夷狄(野蛮人)に囲まれているぜ！という思想です。強烈な自民族中心主義ですね。そもそも「中華」「中国」なんて言い方はそのあらわれです。でも古代や中世はそれを自称できるほど強かったし高度な文化を誇っていました。

2は冊封体制ですね。中華思想に基づいて外交関係が築かれます。中国は周りに比べて圧倒的に強かったし、文化も進んでいた。だから周辺の国々は中国に朝貢し、そして中華の皇帝から官位や爵位を与えられて自国の支配を認めようという、形式上の君臣関係を結びます。ただし、19世紀以降、西洋各国が来ることにより、次第に西洋のスタンダードに飲み込まれていくことになります。主権国家体制ですね。

3はアヘン戦争で敗北して開国、自由貿易の世界にはいり、また西洋の主権国家体制にくみこまれたことを書くことになります。さらに不平等条約を突きつけられて、実質、中国のほうを下に位置づけられることになりました。さらに、清仏戦争や日清戦争で、ベトナムや李氏朝鮮などの藩属国の宗主権を失っていることに触れることになります。こうして徐々に中華秩序は崩壊していきます。

いかがでしょうか。中国の外交はよくでるテーマなので、改めて確認しておいてくださいね。

《解答例》

近代以前は中国が世界の中心で周辺は夷狄に囲まれているとする中華思想があり、周辺国が中華皇帝に朝貢すると、皇帝は周辺国の君主を冊封し、君臣関係を結んだ。清朝末期、アヘン戦争に敗れると主権国家体制に組み込まれ、また不平等条約で西洋より下に位置づけられ、清仏戦争に敗れベトナムの、日清戦争に敗れ朝鮮の宗主権も失った。(155字)